

学林舎情報

NO. 221

共創ネットワーク

●発行日：2020年12月19日（土）

〒661-0035 兵庫県尼崎市武庫之荘3-19-3 TEL 06-4962-5876 FAX 06-4962-5877 e-mail info@gakurin.co.jp

発行:教材出版 学林舎



学習の行き先 オンライン学習の現状に関して

新型コロナウイルスの感染拡大の影響によって、2020年3月から休校措置がとられ、4月には緊急事態宣言が発出された事で、休校期間は実に3ヶ月にも及びました。

文部科学省から発表された「新型コロナウイルス感染症対策のための学校の臨時休業に関連した公立学校における学習指導等の取組状況について」によると、臨時休業中の家庭学習は、教科書や紙の教材を活用した家庭学習が100%、テレビ放送を活用した家庭学習が24%、教育委員会が独自に作成した授業動画を活用した家庭学習が10%、それ以外のデジタル教科書やデジタル教材を活用した家庭学習が29%、同時双方向型のオンライン指導を通じた家庭学習はわずか5%という結果でした。（複数回答あり）

文部科学省は、紙の教材だけでなくオンライン教材などを活用した学習や、双方向型のオンライン指導を推奨していますが、家庭ごとにネット環境が異なるといった設備面での問題や、教員側のICTへの対応スキルの問題、オンライン化に伴う教員への負担の増大などの問題から、公立学校においては動画やデジタル教材、オンライン指導を取り入れている学校は3割程度にとどまっています。

一方、学習塾や私立学校においては、対面授業に変わって、YouTubeなどを用いた授業の動画配信やZoomなどを用いた双方向授業を行い、メールやSNSを利用した課題や質問のやりとりが行われるなど、対応の早さが目立ちました。

今回は、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、学習塾を中心に急速に進んだオンライン学習の現状と今後について考えます。

オンライン学習と一口に言っても、授業の動画配信、リアルタイムでの双方向動画授業、AIを活用した学習ツールの活用など多岐に渡ります。これらのオンライン学習はマルチデバイス対応であるため、いつでも・どこからでも同じ授業・学習が受けられます。また、移動による時間のロスがなくなり、保護者の送迎の負担が軽減されます。部活や学校生活など自分の予定に合わせて授業を受けることができ、繰り返し視聴が可能であることから生徒の学習理解の促進が期待できるなど、生徒側のメリットは数多くあります。一方、塾側にとっても、遠隔エリアから生徒を獲得することが可能となり、少子化が進む現代において大きなメリットがあります。さらに、対面授業と併用することで、欠席時の補講への活用や家庭での復習としての活用も可能となり、オンライン学習ツールの提供は他塾との差別化をはかる上でも大きな役割を果たしています。

現在のところ、塾業界よりも大きく出遅れている公立学校のオンライン学習ですが、新型コロナウイルスの感染拡大を受け、2019年12月に文部科学省から発表された、小学校・中学校の児童生徒に1人1台の端末と、すべての学校に高速大容量の通信ネットワークを整備するGIGA（Global and Innovation Gateway for All）スクール構想が前倒しになり、令和5年度までにすべての小中学校の児童生徒に1人1台の端末が配布される予定となっています。

新型コロナウイルス感染症の収束が見通せない現状においては、「with コロナ」を前提として学びを保障する必要があります。そこで、ICTを活用して対面授業とオンライン授業を組み合わせる「新しい教育様式」の実践、オンラインを含む家庭学習を授業と

同様に評価することを明確化することなどが中央教育審議会でも議論されています。

そして、コロナ収束後の「ポストコロナ」における新しい学びの形として、①離れた学校の児童生徒同士が交流する遠隔交流学习や、他校の教室とつないで継続的に合同で授業を行う遠隔合同授業などを通じて、多様な人々とのつながりを実現する。②ALT（外国語指導助手）とつないだ遠隔学習によって、ネイティブな発音にふれたり、外国語で会話する機会の拡大・充実をはかる。博物館や大学、企業などの外部人材などの専門家とつないだ遠隔学習によって、専門的な知識にふれ、学習の幅を広げる。③外国にルーツをもつ児童生徒や不登校、入院中や病気療養中の児童生徒など個々の状況に応じた遠隔教育を行うこと。などが提案されています。

ICTを活用した効果的な指導を行うための教員の研修や、ICT支援員の配置など制度面での課題はまだ多くありますが、今後は、教育のオンライン化がさらに進み、対面授業とオンラインによる遠隔学習を併用したハイブリッド型の学びが加速していくものと考えられます。（文／学林舎編集部）

学習の行き先

学校での英語学習の現状に関して

2020年度より教育改革がスタートしました。まず、小学校で新学習指導要領が全面実施されました。英語教育においては、「英語を使う力」を伸ばす方針のもと、小学3・4年生で週1コマ程度の外国語活動の授業が新たに設けられました。また、小学5・6年生ではこれまでの外国語活動として英語に慣れ親しむための授業から、2020年度より算数や国語、社会など同様に教科としての「外国語」の授業となりました。教科化したことから、外国語活動では成績はつきませんでした。2020年度からは成績がつくこととなります。

小学3・4年生では「話す」「聞く」力を、小学5・6年生ではそれらに「読む」「書く」力が加わり、4技能がバランスよく養われます。小学校で学習

する語彙は600～700語（中学校で学習する語彙の約半分）に増加し、中学1・2年生で学習する疑問詞、助動詞、動詞の過去形などの文法事項を扱った表現も扱い、中学でスムーズに英語を学習できるよう基礎的な力を育みます。

新教科書では道案内やレストランなど、日常生活で実際に出会うさまざまな場面で用いられる単語や英語表現を学習します。はじめに、ゲームや歌などで楽しく学習し、そのあとに音声を聞いてその内容を理解したり、自分のことやクラスメイトのことについて英語で話したり書いたり、段階的に英語を学習します。次に、小学校に続いて中学校でも2021年度には新学習指導要領が実施されます。習得語彙数が1,200語程度から1,600～1,800語程度に増加するのに加えて、現行では高校での学習内容である現在完了進行形、仮定法などを新たに学習することになります。また、これまですべての学校では行われていなかったオールイングリッシュの授業が導入されます。教師も生徒も含め、授業でのやりとりがすべて英語になるのです。

さらに、これまでの「聞く」「話す」「読む」「書く」の「話す」に「やりとり」、「発表」の2領域が追加されます。これまでの「読む」「書く」を中心とした指導から、「聞く」「話す」にも力を入れ、4技能をバランスよく学習します。

教科書にはQRコードが設けられ、家でも気軽に音声を聞いて英語を学習することができるようになります。授業ではペアワークやスピーチ、作文など、さまざまな課題を通じて、より実践的な「英語を使う力」を養います。

これらの教育改革を受けて、高校入試は大きく変化するでしょう。習得語彙や文法が増加したことから難化することが予想されます。また、これまでの「聞く」「話す」「書く」試験に「話す」が追加される都道府県も出てくるでしょう。英語教育は日々変化をしています。生徒や保護者のみなさんは、入試や将来を見据えて情報を収集することが大切です。そして、早い段階から対策することで、英語を味方にしましょう。

（文／学林舎編集部）

教育の行き先 通信制高校の進学に関して

文部科学省の統計の一つである学校基本調査の結果の詳細が12月に公表されます。先だって、8月に公表された速報値によると、通信制高校に在籍する生徒数が調査開始以降初めて20万人を超え、前年からも約1万人増加しました。少子化が進んでいる中で、在籍数が増加している通信制高校とはどのような学校なのでしょうか。また、通信制高校へ進学するメリットはどのようなものがあるのでしょうか。

通信制高校とは「全日制・定時制の高校に通学することができない青少年に対して、通信の方法により高校教育を受ける機会を与える」ことが創設の趣旨であると文部科学省のホームページに記載されています。通信制高校に在籍している人は、全日制の高校から転入した人や、高校教育を受けられず、後年になって新たに学ぼうとする人など、様々です。近年では、3以上の都道府県をまたいで生徒を募集する広域校の生徒の、約6割が不登校を経験していたという調査もあります。また、全日制と同じく、公立学校と私立学校があり、最近では私立学校の生徒数が増えています。特に、私立学校において生徒数の増加が顕著です。

通信制学校における学習の形態は、添削指導と面接指導、そして、多様なメディアの利用に分けられます。添削指導は、レポートを提出し添削指導を受けることです。面接指導は、全日制学校の授業にあたりません。週に一定割合で通学する場合や、一定期間にまとめて行う集中スクーリングが設けられている場合もあります。面接指導では、学校行事といった特別活動も行われます。多様なメディアの利用については、テレビやラジオ講座での学習が例としてあげられます。この多様なメディアを利用して学習することを単位として認めている学校の場合、面接指導や特別活動の時間の一部が免除されることがあります。また、自宅での学習だけでなく、協力施設などで添削や面接の指導を受けることもできます。

では、通信制高校に進学するメリットとしては、どのようなものがあるのでしょうか。

最大のメリットは、授業時間帯が決められていないため、好きな時間に学習することができることです。そのため、学習以外の自分がやりたいことを生活の軸にすることができます。また、通学の時間が減らせること、他人と比較せず自分のペースで学習することもメリットといえるでしょう。

一方で、デメリットもあります。自分自身で学ぶ時間を確保しなければならないということです。メリットであげた「好きな時間に学習ができること」は、別の視点から見ると、学習時間の確保という課題につながります。これは、メリットでもあり、デメリットにもなり得ます。時間が定められていないからこそ、自分を律することが必要です。

最後に、通信制高校を進学の一つの選択肢とする場合は、高校のホームページを確認するほかに、資料請求をすることをおすすめします。ホームページに記載されている情報は抜粋されていることもあるため、詳しい資料を取り寄せるほうがよいでしょう。また、インターネットで、通信制高校の在籍経験のある人の声を読むのも一助となります。しかし、この場合は、その人の主観であることに留意することが大切です。

(文/学林舎編集部)

クロスロード Crossroad

第112回 文／吉田 良治

今年一年を振り返る

今年も残すところ半月を切りました。今年も年明けより世界的に新型コロナウイルス・新型肺炎の感染が広がり、日本では現在ウイルス感染の第三波に見舞われています。今年予定されていた東京五輪・パラリンピックも来年に延期となり、様々な分野で社会生活に制限される、所謂新しい生活様式が求められてきました。イギリスやアメリカではワクチン接種も始まりましたが、日本でワクチンが普及されるまでまだ時間がかかります。冬になり気温や湿度が下がると、ウイルス感染のリスクが高まります。春に出された国の緊急事態宣言並みに不要不急の行動制限が必要になっています。感染者の増加に伴い医療機関が困窮する状況にあり、国民一人一人が高いレベルでウイルス感染予防に取り組むことが重要です。

教育機関は春に行った休校やオンライン授業で、生徒や学生に十分な教育が提供できていなかったということで、秋は対面授業を続けてきました。冬に入って教育機関でのクラスター感染が増えつつあり、特に教職員の感染が増えて授業を実施できない事態になるケースも増えています。生徒や学生は若く無症状か軽症で済んでいるケースが多いので軽く考えがちですが、教職員には年配者も少なくないので、教職員に感染が広がると授業の運営維持が難しくなるだけでなく、教職員の重症化にも注意が必要です。これから受験シーズンに入る中、受験を控えた受験生の不利益にならないよう、早急にオンライン授業などの対応も重要になっていきます。

スポーツ活動でのクラスターも増加しています。競

技によっては飛沫や接触の感染リスクが高く、スポーツの部活動で感染が広がり、試合の対戦相手にも感染が広がるケースが出ています。スポーツもアスリートは無症状か軽症が多いので、さほど危機感がない気はしていますが、指導者や試合の審判、そしてスポーツ活動運営管理者には年配者が少なくないので、教育機関の教職員同様、重症化になるリスクを考えると、指導者や審判、そしてスポーツ活動運営管理者の感染予防にも配慮が必要です。

教育機関、そしてスポーツ界はクラスター感染のリスクが高いということで、医療機関に過度な負担をかけることで医療崩壊をまねかないためにも、春の緊急事態宣言並みの行動制限が必要な時期に来ています。

今年もコロナ禍であまり良い出来事が少なかった中、最後に少し良い出来事を紹介します。2年前にタックル問題を発生させた日本大学アメリカンフットボール部が、3年ぶりに甲子園ボウルに出場しました。私は2年前のタックル問題後、チームからの要望で半年間再建プログラムを提供しました。その時プログラムの核にしたのはスポーツマンシップでした。今年の甲子園ボウルではタックル問題以来2年ぶりに関西学院大学と対戦しましたが、両チームとも反則が少なく、フェアプレーにあふれた好ゲームでした。特にフィールドに倒れた関学の選手に日大の選手が手を差し伸べ、起き上がる補助をするシーンがたくさん見られました。一昨年の12月に実施したプログラムで、スポーツマンシップを考える機会として、フィールドで発生する様々な場面で、どのような立ち振る舞いをするべきか、学生はもちろん指導者やOBも一緒になって、プログラムを通し正しいスポーツマンシップ像の認識を深めていきました。プログラムで取り組んだ一つの応えが、今回の甲子園ボウルで確認することができました。スポーツマンシップはスポーツ活動だけでなく、社会活動にも応用できます。フィールド内だけでなく、社会生活でも素晴らしい立ち振る舞いを期待します。

今年もコラム“Cross Road”をご覧いただきありがとうございました。新型コロナウイルスとはまだしばらく付き合っていかなければなりません。来年は早い段階でウイルス感染が抑えられることを願っています。

(つづく)